（様式４）

教育研究グループ結果報告書

報告日 令和４年３月３０日

グループ名	三鷹市立第五中学校	フリガナ 代表者氏名	大野浩史（オオノヒロシ）
学校名 （代表者）	三鷹市立第五中学校	電話番号	0422-45-3201
研究テーマ	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 「指導と評価の一体化の実現」		
研究期間	令和３年４月１日～令和３年３月２５日		

研究結果の概要及び詳細

授業改善に向けた取組

１　令和３年度から評価の観点が３観点になり、各教科とも、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、３つの資質・能力、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく向上させるために、指導計画・評価計画を作成し、指導と評価の一体化を実現させる。

２　東京都教育委員会の授業改善推進拠点校の指定を受け、東京都教育委員会の実施する学力向上を図るための調査の意識調査結果の分析をもとに、学力向上を図る。

全教科で取り組む共通事項の設定

（１）　６月に実施した都の意識調査の分析結果より研究の方向性を検討

生徒の意識調査の質問項目「授業の内容はどれくらいわかりますか」「学習はどれくらい得意ですか」の肯定的回答率を増やし、個々の生徒の学習意欲を高め、学力向上に結び付けていく必要がある。そのためには、「わかることやできることが楽しい」、「しっかり考えられるようになりたい」、「将来の仕事や生活に役立つ」という、生徒の内発的動機付を高めることが重要である。内発的動機付けを高めることにつながるのは「価値づけ方略」といい、学習が「自分のためだと考えること」、「目標のためだと考えること」、「目標を立てて始めること」、「する理由を考えること」という経験を授業でさせ、それが個々の家庭学習にも結び付き、自主的に学習を進めることができるようにすることが大切である。

（２）　方向性から本校の課題を見出す

生徒の学習意欲を向上させ、学力向上を図るために「いかに内発的動機付けを高め、学習意欲を向上させ、学力向上に結び付けていくのか」⇒価値付け方略を決める手がかり

（１）できない生徒にはスモールステップを提示し、生徒一人一人が自分にあった目標を持ち、なぜそれがいいのか考え、わかったという実感をもつように学習させる。

（２）本当の意味でこれからの時代を生きていくためには、深い学びに結びつける必要がある。

（３）本校の課題・・・上記（１）と（２）からできること

（1）プリントやテスト問題等のユニバーサルデザイン化⇒プリントを見ただけで諦めてしまう生徒にも視覚的に捉えやすく、取り組みやすいテスト問題やプリントを作成する必要がある。テスト問題やプリントの内容や難易度を変えるのではなく、ユニバーサルデザイン化を工夫し、生徒がやってみようとする意欲を引き出す。

（２）安心安全な人間関係をベースにした「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学びにつなげる」⇒まず生徒の主体的な学びを引き出すように授業の導入を工夫し、説明中心の授業から、思考の場面を設定し、仲間と意見交換しながら、解決策を検討していくように、対話的な場面を設定し、深い学びにつなげる必要がある。

研究結果の概要及び詳細

３本校の取り組み（詳細は別紙リーフレット参照）

本校の研究テーマ『「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」～指導と評価の一体化の実現～』にそって、意識調査の分析結果をいかして全教科で取り組む共通事項を以下の３項目に決め、全教員が一人一研究授業に取り組んだ。

【全教科で取り組む共通３項目】
〇プリントやテスト問題のユニバーサルデザイン化
〇対話的場面、話し合う場面を設定する。
〇学習を深い学びに結びつける。

４　成果と課題

（１）　主体的・対話的で深い学びの過程の実現、指導と評価の一体化について

① 今年度は、授業で生徒が主体的に課題に取り組むよう、導入時における「ねらい」の明示→生徒の学習意欲を引き出す課題の提示→個人で教材との対話、ペアや４人グループでの意見交換など対話的な場面を設定して、深い学びに結び付ける工夫を行う→まとめの場面で学習内容を確認し、その時間に学んだことの振り返りを生徒自身の言葉で記述するという授業展開に取り組んだ。図１R3 全国学力学習状況調査結果の第１四分位にあたる生徒の中にはあきらめてしまう生徒がいるので、教員の個に応じた指導を継続する必要がある。また、研究授業の成果をどの単元にも生かし、継続的に実践していくことが重要である。

図１

R3年度全国学力学習状況調査結果の四分位数

	国語			数学		
	貴校	東京都（公立）	全国（公立）	貴校	東京都（公立）	全国（公立）
△　第３四分位	11.0問	11.0問	11.0問	13.0問	12.0問	12.0問
◇　第２四分位	10.0問	10.0問	9.0問	10.0問	10.0問	10.0問
▽　第１四分位	8.0問	8.0問	7.0問	8.0問	7.0問	6.0問

② 全教科で取り組む共通３項目【〇プリントやテスト問題のユニバーサルデザイン化〇対話的場面、話し合う場面を設定する。〇学習を深い学びに結びつける。】については、どの教科も工夫して実践した。特に、定期考査でユニバーサルデザインの視点から問題用紙と解答用紙の書式などに工夫を加えた結果、平均点か上がった教科や、生徒から、問題が見やすくなって早く解けるようになったと感想が上がるようになり、成果があがったととらえている。

③ 今年度評価の観点が３観点に変わり、各教科の指導計画・評価計画を単元ごとに作成した。今後は生徒や保護者にもそれを伝え、生徒自身にも学習の進行を把握させ指導と評価の一体化を図る必要がある。

④ 先行研究に取り組んだ学校によれば、パフォーマンス評価や作品の評価、ワークシートの評価をどのようにつけるのかといったルーブリックを教科ごとに作成し、あらかじめ生徒に示したことにより、「先生たちは自分たちの良いところを認めてくれる」という生徒の意識調査の肯定率が全教科で８割以上を達成したという報告がある。本校の指導と評価の一体化の研究に取り入れる必要がある。

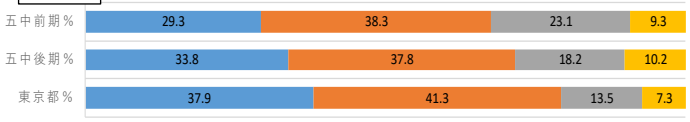
（２）　家庭学習について

家庭学習についてはｅライブラリに取り組んだ生徒の中に、意欲的に取り組んだ生徒がいる。この他の家庭学習の取り組ませ方や提示方法については引き続き検討する必要がある。また、学習マラソンを iPad で配信する計画を立てたので、令和４年度から使用する。

（３）　生徒の内発的動機付けの変容（都意識調査結果より）

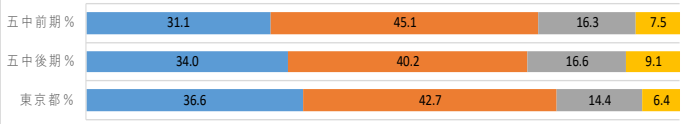
本校は、都意識調査の学習動機の図２「分かることやできることが楽しいから」、図３「しっかり考えられるようになりたいから」、図４「将来の仕事や生活に役立つから」という内発的動機を高めることで学習意欲を高め、学力向上を図ることができるのではないかという仮説をたて研究に取り組んでいる。「わかることやできることが楽しいから」については、前期（６月）より、後期（１１月）の意識調査の肯定率が高まった。これは、主体的・対話的で深い学びの過程を実現する授業改善の成果ととらえている。しかし、「しっかり考えられるようになりたいから」、「将来の仕事や生活に役立つから」については肯定率が下がってしまったので、授業で、「考えさせること」や「学習が将来の仕事や生活に役に立つ」ことについて理解させることにさらに取り組む必要がある。学習が「自分のためだと考えること」、「目標のためだと考えること」、「目標を立てて始めること」、「する理由を考えること」という経験を授業でさせ、学習意欲向上、学力向上に結び付けていきたい。

図２　学校全体学習の動機　分かることやできることが楽しいから



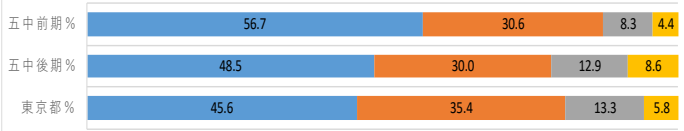
	東京都％	五中後期％	五中前期％
当てはまる	37.9	33.8	29.3
どちらかといえば当てはまる	41.3	37.8	38.3
どちらかといえば当てはまらない	13.5	18.2	23.1
当てはまらない	7.3	10.2	9.3

図３　学校全体学習の動機　しっかり考えられるようになりたいから



	東京都％	五中後期％	五中前期％
当てはまる	36.6	34.0	31.1
どちらかといえば当てはまる	42.7	40.2	45.1
どちらかといえば当てはまらない	14.4	16.6	16.3
当てはまらない	6.4	9.1	7.5

図４　学校全体学習の動機　将来の仕事や生活に役立つから



	東京都％	五中後期％	五中前期％
当てはまる	45.6	48.5	56.7
どちらかといえば当てはまる	35.4	30.0	30.6
どちらかといえば当てはまらない	13.3	12.9	8.3
当てはまらない	5.8	8.6	4.4

その他特記事項